

立憲大正七年七月四日

決裁大正 年月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

故多々良飛岡町下信

大正七年七月四日

宮内省

(十大)

受

340

裏面白紙



故勲四等飛岡卯一郎位記追陞ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十四年七月三日

内閣總理大臣子爵加藤高明



内

閣

商任第四八號

案起
本年七月三日

裁可	決行
本年七月三日	年 月 日

内閣總理大臣

印

内閣書記官長

印

内閣書記官長



故勲四等飛岡卯一郎ハ別紙商工大臣上奏
ノ通功績顯著ノ者ニ候處去ル六月二十
五日死去致候ニ付左ノ通位記追賜件
上奏相成然ルヘシ

故勲四等飛岡卯一郎

特旨ヲ以テ位記ヲ追賜セラル

勲四等飛岡卯一郎

叙正六位

六月二十五日付

鹿兒島縣鹿兒島市平ノ町

勲四等 飛岡卯一郎

右者明治三十二年七月東京帝國大學法科大學ヲ卒業シ身ヲ實業界ニ投シ明治三十六年一月株式会社第四百十七銀行取締役ニ擧ケラレ後支配人ヲ兼ネ次テ常務取締役トナリ大正九年五月頭取ニ進ミ内容充實ニ努メ資金、融通ヲ計リ産業、振興ニ資シ又明治四十一年九月鹿兒島商業會議所、副會頭ニ擧ケラレ次テ大正八年胃會頭ニ進ミ其ノ間商工業、發展ニ努力スル所尠カラス又鹿兒島港開港、港灣、改修ニ盡瘁シ其ノ實現ニ付テハ本人、力ニ負、所頗ル多シ一面市會議員、縣會議員ニ選ミ地方自治ニ貢獻シ衆議院議員ニ選マレテ國政ニ參與シ其ノ任ヲ全フス其ノ他社會公共ノ事業ニ盡カスル等同人、如キハ多年實業ニ精勵シ成績不尠モ、候處病氣、爲メ去ル六月廿五日死亡致候ニ付テハ、特ニ

生前、日付ヲ以テ相當敘位、義御詮議
相成度知事具申書相添此段及宣示請候
也

大正十四年七月二日

商工大臣野田卯太郎



内閣總理大臣子爵加藤高明殿

商工業並産業功芳者勲等進叙儀付内申

勲四等飛岡卯一郎

明治八年十二月生

右、商工業並産業上、盡瘁シタル功芳不尠ト認め候條勲等進叙ノ御沙汰有之候様致度此段及内申候也

大正十四年六月二十九日

鹿兒島縣知事 縣忍 加三郎

商工大臣野田卯太郎殿

鹿兒島縣

功績調書

鹿兒島縣鹿兒島市平町三二ノ

飛岡卯一郎

明治三十三年七月東京帝國大學法科ヲ出テ少壯ニシ
テ實業界ニ投シ既ニシテ大正九年青株式會社第百
四十七銀行頭取ノ任ニ孰クヤ内容ノ充實ニ努メ
資金ヲ融通シテ産業ノ振興ニ貢獻スル所尠シナ
ラス又大正八年四月本縣商業會議所會頭ニ當
選シ特ニ商工業ノ發展ニ努力シ時勢ノ推移ヲ察
シ且表ニハ鹿兒島港開港ニ港灣ノ改修ニ盡力ス
ル所アリ之等實現ニ就テハ本人ノ力ニ負フ所頗ル
多シ其間市會議員縣會議員及衆議院議
員ニ選ハレテ各其ノ任ヲ全ウシ又本縣社會事

鹿兒島縣

業ニ寄與スル所多シ最近無線電信敷置
就テモ甚タ盡力スル所アリ實ニ本縣實業界
ノ重鎮ニシテ終始一貫社會公共ノ爲メ盡
率努力カリ輸シ其功績甚シ不尠少本人ノ
心事高潔ニシテ操守堅固ナルヲ依ルト謂フ可シ
大正三十五年遂ニ死シタルニ就テハ一般民ニ其功績
ヲ讃仰シ死シ惜ム所ナリ

履歷書

鹿児島市平之町差控番戸

飛岡 卯一郎

明治八年十二月十三日生

一明治三十二年七月

東京帝國大學法科卒業

一明治三十四年三月

鹿児島市會議員當選大正二年三月

二十四日任満了

一明治三十六年一月

株式会社第百四十七銀行取締役當選

同年十月支那人兼任同四十二年一月常務

取締役當選大正九年五月三日頭取就任現在中

一明治三十六年十月

鹿児島縣會議員當選同四年九月任

満了

一明治四十年三月

鹿児島商會會議所議員當選同四十一年

商工省

九副会頭當選引續在職中大正八年四月

会頭當選同十年三月再選（現在職中）

一明治四十五年五月廿日

帝國衆議院議員當選

一明治三十九年五月廿五日

解散退職

一明治三十九年七月一日

日獨事件功より勲四等叙し瑞寶

章ヲ賜

右

飛岡 卯一郎



一動四等飛岡印一部

右特旨ヲ以テ敍位相成候ニ付位記並辭令及回送候
條傳達方御取計有之度候也

大正十四年 七月 四日

宗秩寮總裁子爵仙石正敬
南上

宮 内 省

裏面白紙

348